

8-4-2 植物

工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（トンネル、変電施設、保守基地）の存在により、対象事業実施区域及びその周囲で、重要な種及び群落への影響のおそれがあることから、環境影響評価を行った。

なお、東海丘陵の小湿地群は、春日井市東北部の丘陵地の内、東海丘陵要素植物群の生育する水域・湿地周辺とした。

(1) 調査

1) 調査すべき項目

ア. 高等植物に係る植物相及び植生の状況

調査項目は、高等植物に係る植物相及び植生の状況とした。

イ. 高等植物に係る重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

調査項目は、高等植物に係る重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況とした。

また、東海丘陵の小湿地群においては、「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」(平成19年3月、愛知県)に挙げられている表8-4-2-1の種及び専門家の助言により選定した湿地性の種を対象とした。

表 8-4-2-1 東海丘陵要素植物群

科名		種名
01	バラ	マメナシ (イヌナシ)
02	カエデ	ハナノキ
03	モウセンゴケ	ナガバノイシモチソウ
04	ゴマノハグサ	ミカワシオガマ
05	タヌキモ	ヒメミミカキグサ
06	モクセイ	ヒトツバタゴ
07	モクレン	シデコブシ
08	ホシクサ	シラタマホシクサ
09	ユリ	ミカワバイケイソウ
10	メギ	ヘビノボラズ
11	モウセンゴケ	トウカイコモウセンゴケ
12	ハイノキ	クロミノニシゴリ
13	ツツジ	ナガボナツハゼ
14	イネ	ウンヌケ
15	ブナ	モンゴリナラ (フモトミズナラ)

ウ. 蘚苔類に係る重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

調査項目は、蘚苔類に係る重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況とした。

また、東海丘陵の小湿地群においては、専門家の助言により選定した湿地性の種を対象とした。

2) 調査の基本的な手法

ア. 高等植物に係る植物相及び植生の状況

文献調査により、地域に生育する高等植物関連の文献、資料を収集し整理した。なお、必要に応じて専門家へのヒアリングを行った。

現地調査方法を表 8-4-2-2 に示す。

表 8-4-2-2 高等植物の現地調査方法

調査項目	調査方法	
高等植物に係る植物相	任意確認	調査地域内を任意に踏査し、確認された種を記録した。調査の対象はシダ植物以上の高等植物とし、現地での確認が困難な種は標本を持ち帰り、室内で確認を行った。
高等植物に係る植生	コドラート法	植生や土地の利用の状況によって区分された植物群落について、方形枠（コドラート）を設定し、植生の状況を調査した。調査した植生はブラン-ブランケ法により、その特徴の把握を行った。

イ. 高等植物に係る重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

生育が確認された高等植物に係る種及び分布が確認された群落の内、表 8-4-2-3 に示す基準に該当するものを高等植物に係る重要な種及び群落として選定した。

なお、重要な種の選定にあたっては、必要に応じて専門家の助言を受け、選定した。

表 8-4-2-3 高等植物に係る重要な種及び群落の選定基準

番号	文献及び法令名	区分
①	文化財保護法（昭和 25 年、法律第 214 号）	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年、法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	愛知県文化財保護条例（昭和 30 年、愛知県） 春日井市文化財保護条例（昭和 57 年、春日井市） 名古屋市文化財保護条例（昭和 47 年、名古屋市）	県天：県指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
④	自然環境保全法（昭和 47 年、法律第 85 号）	○：指定の地域
⑤	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例（昭和 48 年、愛知県条例第 3 号） 自然環境の保全を推進する条例（平成 24 年、春日井市）	指定：指定希少野生動植物
⑥	環境省第 4 次レッドリスト 植物Ⅰ（維管束植物）及び植物Ⅱ（維管束植物以外：蘚苔類、藻類、地衣類、菌類）（平成 24 年、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑦	レッドデータブックあいち 2009（平成 21 年、愛知県）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類
⑧	レッドデータブックなごや 2010-2004 年版補遺-（平成 22 年、名古屋市）	NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群
⑨	植物群落レッドデータ・ブック（平成 8 年、我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会）	1：要注意 2：破壊の危惧 3：対策必要 4：緊急に対策必要
⑩	第 4 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査報告書東海版（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）（平成 3 年、環境庁）	指定：掲載されている巨樹、巨木
⑪	第 2 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 東海版（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）（昭和 55 年、環境庁） 第 3 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落Ⅱ 東海版（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）（昭和 63 年、環境庁） 第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書（平成 12 年、環境庁）	指定：指定されている特定植物群落
⑫	湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～（平成 19 年 3 月、愛知県）	○：東海丘陵要素植物群
⑬	専門家の助言により選定した種	○：選定種

ウ. 蘚苔類に係る重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況

文献調査により、地域に生育する重要な蘚苔類関連の文献、資料を収集し、整理した。なお、必要に応じて専門家へのヒアリングを行った。選定基準は表 8-4-2-3 に示す基準に該当するものを重要な種として選定した。

現地調査の方法を表 8-4-2-4 に示す。

表 8-4-2-4 蘚苔類の現地調査方法

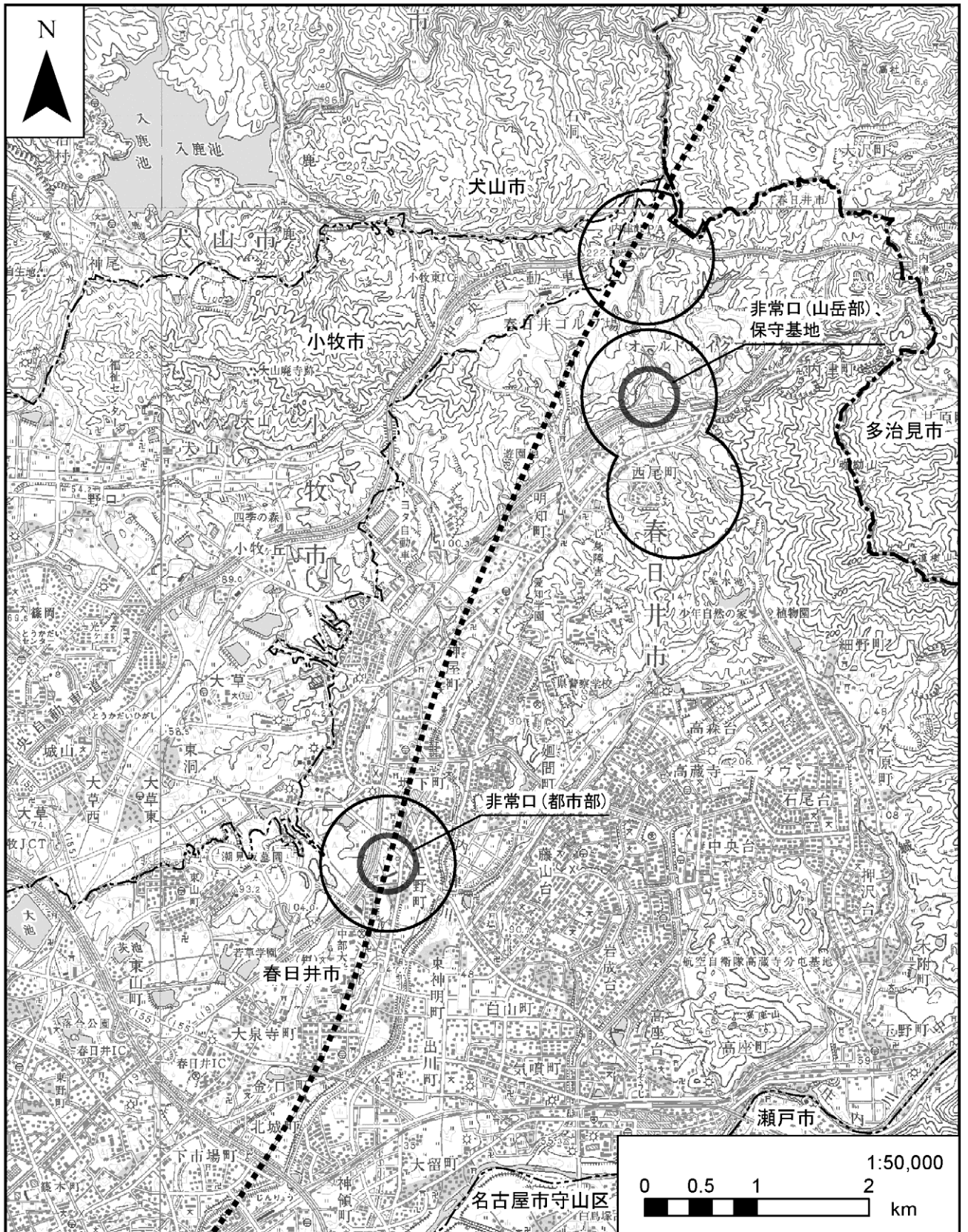
調査項目	調査方法
蘚苔類	調査地域内を踏査し、目視により確認を行った。現地での確認が困難な場合は写真又は標本により確認を行った。

3) 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲の内、都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地を対象に工事の実施又は鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在に係る植物への影響が生ずるおそれがあると認められる地域とした。

4) 調査地点

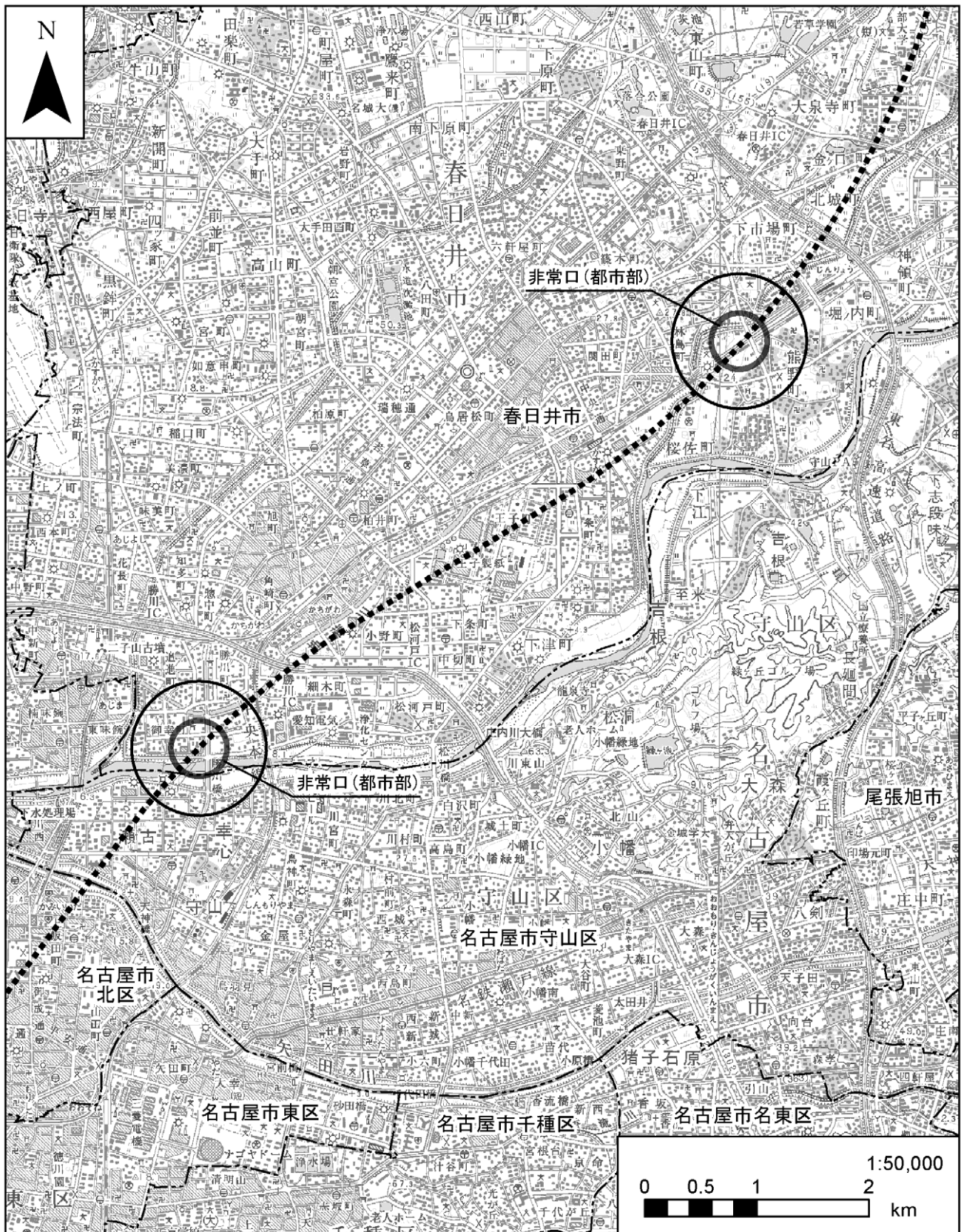
調査地域の内、自然環境の状況及び利用状況等を考慮し、植物の生育環境を適切に把握することができる範囲とした。調査範囲は、土地改変区域から概ね 600m の範囲に設定した。なお、東海丘陵の小湿地群は、周辺の地形等や専門家からの助言を勘案して、その地域を代表する植物の生育環境を網羅できる範囲として、西尾地区の南北に設定した。調査範囲は、図 8-4-2-1 に示すとおりである。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村界
- 調査範囲

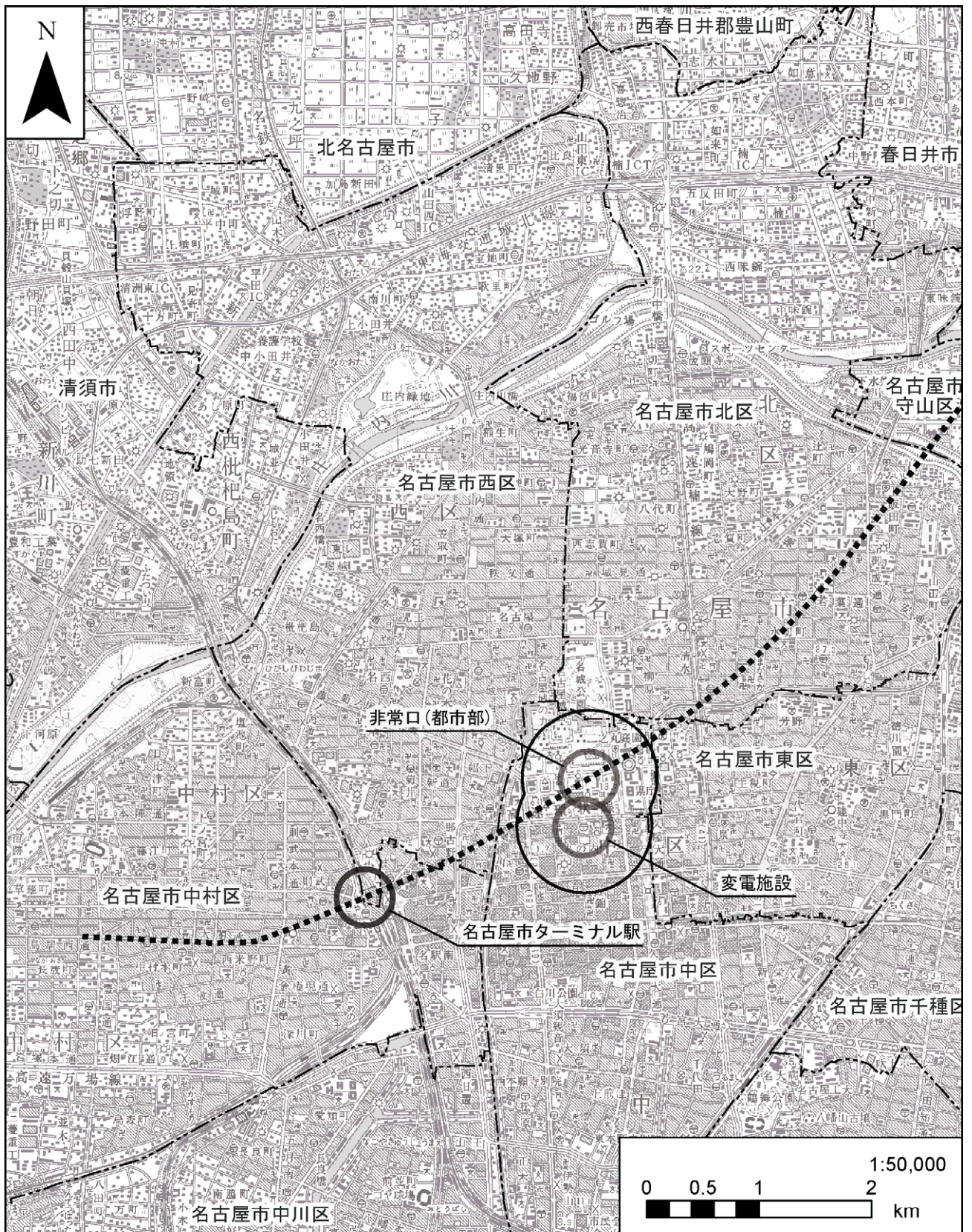
図 8-4-2-1(1) 調査範囲



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村界
- 調査範囲

図 8-4-2-1(2) 調査範囲



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村界
- 調査範囲

図 8-4-2-1(3) 調査範囲

5) 調査期間

現地調査は、表 8-4-2-5 に示す時期に実施した。

表 8-4-2-5 調査期間

調査項目	調査実施日	
高等植物に係る植物相	早春季	平成 24 年 4 月 9 日～11 日
	春季	平成 24 年 5 月 14 日～16 日、平成 25 年 5 月 13 日～15 日
	夏季	平成 24 年 7 月 30 日～8 月 3 日
	秋季	平成 24 年 10 月 8 日～12 日
高等植物に係る植生	夏季	平成 24 年 7 月 30 日～8 月 3 日
	秋季	平成 24 年 10 月 8 日～12 日
蘚苔類	秋季	平成 24 年 11 月 19 日～21 日

6) 調査結果

高等植物に係る植物相、高等植物に係る植生、蘚苔類について現地調査の結果を以下に示す。なお、確認地点における改変の可能性がある範囲からの位置関係は、表 8-4-2-6 に基づいて整理した。

表 8-4-2-6 改変区域と確認位置の距離に関する定義

用語		定義
範囲内	改変の可能性がある範囲	計画施設及び工事施工ヤードが設置され、改変される可能性がある範囲
範囲外	改変の可能性がある範囲の近傍	改変の可能性がある範囲の端部から100mの範囲内
	相当離れた地域	改変の可能性がある範囲の端部から100m以上離れている

ア. 高等植物に係る植物相

ア) 高等植物に係る植物相の状況

現地調査において、151科891種の高等植物が確認された。現地調査の結果は、表 8-4-2-7 に示すとおりである。

表 8-4-2-7 高等植物に係る植物相の現地調査結果

分類			調査時期								合計	
			早春季		春季		夏季		秋季			
			科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シダ植物			13	29	17	42	16	44	17	53	19	63
種子植物	裸子植物		5	8	4	8	4	8	4	6	6	11
	被子植物	双子葉植物	39	140	60	246	65	270	65	274	75	385
		合弁花類	19	77	28	123	28	141	29	150	32	206
	単子葉植物		9	47	12	109	18	129	19	157	19	226
合計			85	301	121	528	131	592	134	640	151	891

注1. 分類、配列などは「自然環境保全基礎調査 植物目録 1987」環境庁（1987）に準拠した。

注2. 各季節において重複して確認されている種が含まれていることから、科数及び種数の合計は季節毎の確認数の合計と一致しない。

調査地域の主な生育環境は、シイ・カシ二次林、コナラ林等の樹林、スギ・ヒノキ植林、竹林、湿生草地、放棄畑雑草地、放棄水田雑草地等の草地が挙げられる。現地調査の結果概要は、表 8-4-2-8 に示すとおりである。

表 8-4-2-8 高等植物に係る植物相現地調査結果の概要

主な生育環境	主な確認種
シイ・カシ二次林、コナラ林等の樹林	ツブラジイ、アラカシ、ソヨゴ、ヒサカキ、シキミ、クロバイ、コナラ、アベマキ、アカマツ、タカノツメ、リョウブ、コバノミツバツツジ、モチツツジ、サルトリイバラ、コシダ
スギ・ヒノキ植林、竹林	スギ、ヒノキ、モウソウチク、タカノツメ、サカキ、ヤブツバキ、イヌツゲ、コマユミ、エノキ、コバノガマズミ、クサギ、イチヤクソウ、ウラジロ、ツタ、ノブドウ
湿生草地	ミカヅキグサ、イトイヌノハナヒゲ、チゴザサ、イヌツゲ、ミミカキグサ、トウカイコモウセンゴケ、サギソウ、タイワンカモノハシ、ハルリンドウ、アリノトウグサ
放棄畑雑草地、放棄水田雑草地等の草地	ワラビ、クサマオ、イシミカワ、シロツメクサ、セリ、ヘクソカズラ、オオアレチノギク、ヒメジョオン、チガヤ、アキノエノコログサ

1) 高等植物に係る重要な種の確認状況

文献調査及び現地調査により確認された高等植物に係る重要な種は95科338種であった。文献及び現地で確認された高等植物に係る重要な種とその選定基準は、表 8-4-2-9 に示すとおりである。なお、名古屋城内は調査を行っていないが、専門家へのヒアリング及び文献調査からキクムグラ、チャセンシダ、センダイスゲが確認されている。

表 8-4-2-9(1) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準							
			文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑦	⑧	⑫	⑬
1	マツバラ	マツバラ	○					NT	VU			
2	ヒカゲノカズラ	アスヒカズラ	○						VU			
3		スギラン	○					VU	VU			
4		ヤチスギラン	○						VU			
5	ミズニラ	ミズニラ	○					NT	NT	CR		
6	ハナヤスリ	オオハナワラビ	○							NT		
7		ヒロハハナヤスリ	○						VU			
8	ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	○							EN		
9	キジノオシダ	タカサゴキジノオ	○						VU			
10		ヤマソテツ	○						NT			
11	コケシノブ	ウチワゴケ	○							VU		
12		ミカワコケシノブ	○					EN	VU			
13	コバノイシカグマ	イシカグマ	○						NT	VU		
14	シシラン	タキミシダ	○					EN	EN			
15	チャセンシダ	カミガモシダ	○						EN			
16		トキワトラノオ	○							NT		
17		オクタマシダ	○					VU	VU			
18		チャセンシダ	○							VU		
19	シシガシラ	コモチシダ	○							VU		
20	オシダ	タカサゴシダ	○					NT	EN			
21		ヌカイタチシダ	○						NT			
22		ワカナシダ	○						VU			
23		オワセベニシダ	○						VU			
24		タニヘゴ	○							NT		
25	ヒメシダ	ツクシヤワラシダ	○						VU	CR		

表 8-4-2-9(2) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準							
			文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑦	⑧	⑫	⑬
26	メシダ	ウスヒメワラビ	○							EN		
27		ミヤマシケシダ	○						NT			
28		ウスバシケシダ	○					VU	VU	VU		
29		シロヤマシダ	○							EN		
30		ウスバミヤマノコギリシダ	○						VU			
31	ウラボシ	クラガリシダ	○				EN	EN				
32		イワオモダカ	○					VU				
33	ヒメウラボシ	オオクボシダ	○					NT				
34	デンジソウ	デンジソウ	○				VU	EN	EX			
35	サンショウモ	サンショウモ	○				VU	EN	EX			
36	アカウキクサ	アカウキクサ	○				EN	CR				
37		オオアカウキクサ	○				EN	EN				
38	ヒノキ	ネズ	○					NT				
39	イチイ	カヤ	○						CR			
40	ヤナギ	キヌヤナギ	○					NT	VU			
41	カバノキ	カワラハンノキ	○						VU			
42		サクラバハンノキ	○	○				NT		NT		○
43	ブナ	フモトミズナラ	○					NT	VU			
44		ウラジログシ	○						VU			
45	イラクサ	ミヤコミズ	○					CR	CR			
46	タデ	ウナギツカミ	○						VU			
47		サクラタデ	○							VU		
48		ヒメタデ	○					VU	EN			
49		ホソバイヌタデ	○					NT	VU			
50		サイコクヌカボ	○	○				VU	NT			○
51		ナガバノウナギツカミ	○					NT	NT	EN		
52		コヌカボタデ	○						VU			
53		ヌカボタデ	○					VU	VU			
54		コムゾソバ	○						NT	EX		
55		ヒメボントクタデ	○						NT			
56		ノダイオウ	○					VU	EN			
57	コギシギシ	○					VU		VU			
58	ナデシコ	カワラナデシコ	○						NT			
59	アカザ	ハマアカザ	○					VU	EX			
60	モクレン	シデコブシ	○	○			春日井市	NT	VU	EN		
61	クスノキ	カゴノキ	○						NT			
62		ダンコウバイ	○						CR			
63		ヒメクロモジ	○						CR			
64		シロダモ	○						NT			
65	キンポウゲ	スハマソウ	○					NT	CR			
66		カザグルマ	○					NT	VU	CR		
67		オキナグサ	○					VU	EN	EX		
68		ウマノアシガタ	○							VU		
69	メギ	ヘビノボラズ	○	○					NT	NT		
70		ヒメイカリソウ	○							CR		
71	スイレン	ジュンサイ	○						NT			
72		オニバス	○					VU	CR	EX		
73		ヒメコウホネ	○					VU	EN	EX		
74	ウマノスズクサ	オオバウマノスズクサ	○						VU			
75		スズカカンアオイ	○						NT			

表 8-4-2-9(3) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準								
			文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑦	⑧	⑫	⑬	
76	ボタン	ヤマシャクヤク	○						NT	VU			
77	マタタビ	マタタビ	○								VU		
78	オトギリソウ	サワオトギリ	○								VU		
79	モウセンゴケ	ナガバノイシモチソウ	○					愛知県	VU	CR	EX		
80		シロバナナガバノイシモチソウ	○					愛知県		CR			
81		イシモチソウ	○						NT	VU	EN		
82		モウセンゴケ	○								NT		
83		トウカイコモウセンゴケ	○	○								○	
84	アブラナ	ミズタガラシ	○							NT	EN		
85		マルバタネツケバナ	○							VU			
86		コイヌガラシ	○						NT		VU		
87	マンサク	ダンドミズキ	○							VU			
88		マンサク	○								NT		
89	ベンケイソウ	ツメレンゲ	○	○					NT	NT	VU		
90	ユキノシタ	ミカワショウマ	○						NT	VU			
91		キバナハナネコノメ	○						NT	NT			
92		コアジサイ	○								NT		
93		コガクウツギ	○								EN	CR	
94		ウメバチソウ	○									EN	
95		タコノアシ	○						NT	NT			
96		ヤブサンザシ	○							VU	EN		
97		ナメラダイモンジソウ	○								NT		
98			イワガラミ	○								EN	
99	バラ	オオウラジロノキ	○								VU		
100		カワラサイコ	○							NT	EN		
101		エチゴツルキジムシロ	○								EN		
102		ワタゲカマツカ	○									NT	
103		マメナシ	○						EN	CR	EN		
104	マメ	ホドイモ	○								VU		
105		カワラケツメイ	○								NT		
106		タヌキマメ	○								VU		
107		カラメドハギ	○									EN	
108		イヌハギ	○						VU	VU	CR		
109		マキエハギ	○									NT	
110		ビワコエビラフジ	○							EN			
111	トウダイグサ	ハギクソウ	○					愛知県	CR	CR			
112		ヒトツバハギ	○								CR		
113	ニガキ	ニガキ	○								VU		
114	カエデ	カラコギカエデ	○							VU			
115		ハナノキ	○						VU	CR			
116	モチノキ	タマミズキ	○								VU		
117		ミヤマウメモドキ	○								VU		
118	クロウメモドキ	ケンボナシ	○							EN			
119	アオイ	ハマボウ	○							VU	EX		
120	ジンチョウゲ	ガンピ	○								VU		
121	スマレ	コタチツボスマレ	○							VU			
122		ケイリュウタチツボスマレ	○								NT		
123		オオタチツボスマレ	○								EN		
124		スマレサイシン	○								EN		

表 8-4-2-9(4) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準							
			文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑦	⑧	⑫	⑬
125	スマレ	アギスマレ	○							VU		
126	ミソハギ	ヒメミソハギ	○							EN		
127		ミズスギナ	○					CR	EX	EX		
128		ミズキカシグサ	○					VU	VU			
129		ミズマツバ	○					VU				
130	ヒシ	ヒメヒシ	○					VU	EN			
131	アカバナ	ウスゲチョウジタデ	○					NT		VU		
132	アリノトウグサ	オグラノフサモ	○					VU	VU	VU		
133		ホザキノフサモ	○							VU		
134		タチモ	○					NT	NT	EN		
135	セリ	ノダケ	○							VU		
136		エキサイゼリ	○					NT	CR			
137		ムカゴニンジン	○							VU		
138	イワウメ	オオイワカガミ	○						VU			
139	イチヤクソウ	シャクジョウソウ	○						NT			
140		ギンリョウソウモドキ	○							VU		
141		イチヤクソウ	○							NT		
142	ツツジ	イワナシ	○						EN			
143		ナガボナツハゼ	○				愛知県	CR	CR			
144	サクラソウ	ノジトラノオ	○					VU	CR			
145		クサレダマ	○							NT		
146	ハイノキ	クロミノニシゴリ	○							NT		
147	モクセイ	ヒトツバタゴ	○					VU	EN			
148	リンドウ	リンドウ	○							EN		
149		コケリンドウ	○						VU	CR		
150		イヌセンブリ	○					VU	NT	VU		
151	ミツガシワ	ガガブタ	○					NT	NT	VU		
152		アサザ	○	○				NT	EN			○
153	ガガイモ	フナバラソウ	○					VU	VU			
154		クサナギオゴケ	○					VU	NT	EX		
155		スズサイコ	○					NT		EN		
156	アカネ	ホソバニセジュズネノキ	○							VU		
157		ナガバジュズネノキ	○						EN			
158		キクムグラ	○						NT	EN		
159		ホソバノヨツバムグラ	○							VU		
160		シチョウゲ	○					NT				
161	ヒルガオ	ネナシカズラ	○							NT		
162	ムラサキ	ホタルカズラ	○						VU	EX		
163		ハイルリソウ	○					CR	EX			
164		ミズタビラコ	○						NT			
165	クマツヅラ	ヤブムラサキ	○							EN		
166	シソ	ジュウニヒトエ	○						VU			
167		ケブカツルカコソウ	○						EN	EX		
168		ミズネコノオ	○					NT	VU	EN		
169		ミズトラノオ	○					VU	VU	EX		
170		オドリコソウ	○							VU		
171		シロネ	○						NT			
172		ハッカ	○							NT		
173		ヤマジソ	○						VU	EX		
174		ヤマハッカ	○					CR	EX			

表 8-4-2-9(5) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準								
			文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑦	⑧	⑫	⑬	
175	シソ	シマジタムラソウ	○							NT			
176		ミゾコウジュ	○					NT	VU				
177		オカタツナミソウ	○							VU			
178		タツナミソウ	○					VU	NT	CR			
179		イヌゴマ	○					NT		NT			
180		ニガクサ	○							EN			
181	ナス	ヤマホオズキ	○							VU			
182	ゴマノハグサ	ゴマクサ	○							NT			
183		マルバノサワトウガラシ	○								VU		
184		オオアブノメ	○					EN	NT				
185		スズメノハコベ	○					VU	VU				
186		ミカワシオガマ	○					VU	NT				
187		グンバイヅル	○					VU	NT	VU			
188		イヌノフグリ	○					VU	NT				
189		カワヂシャ	○	○				VU	EN				
190		ハマウツボ	ナンバンギセル	○					VU				
191			キヨスミウツボ	○					VU		VU		
192		タヌキモ	ノタヌキモ	○					NT				
193	ミミカキグサ		○							NT			
194	ホザキノミミカキグサ		○						VU				
195	フサタヌキモ		○					VU	VU	EX			
196	ミカワタヌキモ		○							NT			
197	コタヌキモ		○							NT			
198	ヒメタヌキモ		○	○				EN	EX	EX		○	
199	ヒメミミカキグサ		○					VU	EN	EX			
200	イヌタヌキモ		○						EX	EX			
201	ムラサキミミカキグサ		○						NT	VU			
202	スイカズラ	オオカメノキ	○					EN	EN	EX			
203		タニウツギ	○						NT	NT			
204	キキョウ	サワギキョウ	○					NT	NT	EN			
205		タニギキョウ	○							VU			
206		キキョウ	○							EX			
207	キク	ヌマダイコン	○							VU			
208		オクモミジハグマ	○								VU		
209		キッコウハグマ	○						VU	NT	VU		
210		カワラハハコ	○								VU		
211		カワラニンジン	○								VU		
212		ヒメシオン	○								VU		
213		ウラギク	○								VU		
214		オケラ	○								NT		
215		シロバナタカアザミ	○							VU	EX		
216		キセルアザミ	○						NT		VU		
217		フジバカマ	○								VU		
218		アキノハハコグサ	○							EN			
219		ミズギク	○								NT		
220		オグルマ	○						NT	EN			
221		ムラサキニガナ	○						VU	VU	EX		
222		ミコシギク	○							NT	EN		
223		ヤマタバコ	○								VU		
224		カシワバハグマ	○								VU		
225	アオヤギバナ	○						VU	CR				

表 8-4-2-9(6) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準							
			文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑦	⑧	⑫	⑬
226	オモダカ	ヘラオモダカ	○							VU		
227		マルバオモダカ	○					VU	EN			
228		アギナシ	○					NT		NT		
229	トチカガミ	セトヤナギスプタ	○					EN	EN			
230		マルミスプタ	○	○				VU	EN	EX		○
231		スプタ	○					VU	VU	EX		
232		トチカガミ	○					NT	EN	EX		
233	ホロムイソウ	シバナ	○					NT	NT	EN		
234	ヒルムシロ	ヒルムシロ	○						NT	EN		
235		ササバモ	○						VU			
236		イトモ	○						NT	NT		
237	イバラモ	ムサシモ	○					EN	EN			
238		サガミトリゲモ	○					VU	VU			
239		イトトリゲモ	○						NT		NT	
240		オオトリゲモ	○							NT	VU	
241	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	○					VU	VU			
242	ユリ	ヤマラッキョウ	○								NT	
243		キイトラッキョウ	○						VU	VU		
244		チゴユリ	○								VU	
245		カタクリ	○									CR
246		ノカンゾウ	○									EN
247		キスゲ	○									VU
248		キヨスミギボウシ	○									VU
249		コバギボウシ	○									VU
250		ヤマユリ	○									CR
251		ウバユリ	○									VU
252		ササユリ	○					春日 井市				EN
253		コオニユリ	○									CR
254		サクライソウ	○						EN	CR		
255		ミヤマナルコユリ	○									EN
256		イワショウブ	○								NT	
257	アマナ	○									VU	
258	ミカワバイケイソウ	○							VU	EN		
259	ヤマノイモ	ヒメドコロ	○								VU	
260	ミズアオイ	ミズアオイ	○						NT	CR	EX	
261	アヤメ	ノハナショウブ	○								EN	
262	ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ	○							VU	CR	
263	ホシクサ	オオホシクサ	○							EN	EX	
264		ツクシクロイヌノヒゲ	○						VU	NT	EN	
265		シラタマホシクサ	○	○					VU	VU	VU	
266		クロホシクサ	○						VU	VU	CR	
267	イネ	ハネガヤ	○							EN		
268		ミズタカモジ	○						VU	EN		
269		ヒメコヌカグサ	○						NT		NT	
270		ヒナザサ	○						NT	VU	EX	
271		ヌマカゼクサ	○								VU	
272		コゴメカゼクサ	○							VU	EX	
273		ウンヌケモドキ	○						NT	VU		
274		ウンヌケ	○						VU	NT	VU	
275		コウボウ	○								VU	

表 8-4-2-9(7) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準									
			文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑦	⑧	⑫	⑬		
276	イネ	カモノハシ	○							VU				
277		トウササクサ	○							NT				
278		ウキシバ	○							NT	VU			
279		シダミコザサ	○							VU	VU			
280		ナリヒラダケ	○							VU				
281	サトイモ	スルガテンナンショウ	○								VU			
282	ミクリ	ミクリ	○						NT	VU	EN			
283		ヤマトミクリ	○	○					NT	NT	EN		○	
284		ナガエミクリ	○	○						NT		VU		○
285		ヒメミクリ	○							VU	CR			
286	カヤツリグサ	イトテンツキ	○						NT	NT				
287		トダスゲ	○							CR	EX			
288		ショウジョウスゲ	○									NT		
289		ツクバスゲ	○									VU		
290		ケタガネソウ	○									VU		
291		ビロードスゲ	○									VU		
292		オオタマツリスゲ	○								EN			
293		ウマスゲ	○									CR		
294		タカネマスクサ	○								VU			
295		ホザキマスクサ	○							VU	CR			
296		ジングウスゲ	○							NT	NT			
297		センダイスゲ	○								VU	EN		
298		アズマナルコ	○									EN		
299		ニシノホンモンジスゲ	○								VU	EN		
300		ヒメアオガヤツリ	○								EN	EN		
301		ヌマガヤツリ	○								NT			
302		オオシロガヤツリ	○								EN			
303		ヒメガヤツリ	○								VU	EN		
304		セイタカハリイ	○								VU	CR		
305		トネテンツキ	○							VU	VU			
306		オオイヌノハナヒゲ	○								VU			
307		イガクサ	○									EN		
308		マツカサスキ	○									EN		
309		シズイ	○								VU	EX		
310		イセウキヤガラ	○									VU		
311		ミカワシンジュガヤ	○							VU	VU	EN		
312	ラン	ヒナラン	○						EN	EX				
313		イワチドリ	○							EN	EN			
314		エビネ	○							NT	NT			
315		ナツエビネ	○							VU	VU			
316		ユウシュンラン	○							VU	VU			
317		キンラン	○							VU	NT	CR		
318		サイハイラン	○									VU		
319		マヤラン	○							VU	CR			
320		クマガイソウ	○							VU	VU			
321		セッコク	○								NT			
322		カキラン	○									VU		
323		ミヤマウズラ	○									VU		
324		オオミヤマウズラ	○								EN	CR		
325		シュスラン	○								VU	CR		
326		ムカゴトンボ	○							EN	CR			

表 8-4-2-9(8) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準							
			文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑦	⑧	⑫	⑬
327	ラン	サギソウ	○	○				NT	VU	VU		○
328		ミズトンボ	○					VU	VU	EX		
329		ホクリクムヨウラン	○						VU			
330		ムヨウラン	○							EN		
331		ウスギムヨウラン	○					NT	EN			
332		ジガバチソウ	○							VU		
333		クモキリソウ	○							VU		
334		スズムシソウ	○						CR			
335		ソクシサカネラン	○					EX	EX			
336		コバノトンボソウ	○							EN		
337		トキノソウ	○					NT	EN	EX		
338		ヤマトキノソウ	○						VU	EX		
計	95 科	338 種	338 種	14 種	0 種	0 種	6 種	132 種	204 種	216 種	1 種	8 種

注 1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

注 2. 分類、配列などは「自然環境保全基礎調査 植物目録 1987」環境庁（1987）に準拠した。

注 3. 高等植物に係る重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」（昭和 25 年、法律第 214 号）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年、法律第 75 号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑤「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和 48 年、愛知県条例第 3 号）

「自然環境の保全を推進する条例」（平成 24 年、春日井市）

愛知県：愛知県指定希少野生動植物、春日井市：春日井市指定希少野生動植物

⑥「環境省第 4 次レッドリスト 植物 I（維管束植物）及び植物 II（維管束植物以外：蘚苔類、藻類、地衣類、菌類）」（平成 24 年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑦「レッドデータブックあいち 2009」（平成 21 年、愛知県）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群

⑧「レッドデータブックなごや 2010 -2004 年版補遺-」（平成 22 年、名古屋市）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群

⑫「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」（平成 19 年 3 月、愛知県）

○：東海丘陵要素植物群

⑬専門家の助言により選定した種

○：選定種

また、現地で確認された重要な種及び群落の確認地点を表 8-4-2-10 に示す。

表 8-4-2-10 現地で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生育環境	確認位置		
			改変の可能性 がある範囲	改変の可能性がある範囲外	
				改変の可能性が ある範囲の近傍	相当離れた地域
01	サクラバハannotンノキ	湿地			○
02	サイコクヌカボ	池周縁部の湿地			○
03	シデコブシ	水路沿い、湿地			○
04	ヘビノボラズ	湿地			○
05	トウカイコモウセンゴケ	湿地			○
06	ツメレンゲ	石垣			○
07	アサザ	ため池			○
08	カワヂシャ	河川	○		○
09	ヒメタヌキモ	ため池			○
10	マルミスブタ	ため池			○
11	シラタマホシクサ	湿地			○
12	ヤマトミクリ	ため池			○
13	ナガエミクリ	水路			○
14	サギソウ	湿地			○
15	ハリミズゴケ	湿地			○
16	オオミズゴケ	湿地、水路沿い			○

イ. 高等植物に係る植生

7) 高等植物に係る植生の状況

文献調査及び現地調査において、合計 33 の高等植物に係る群落等が確認された。現地調査の結果概要は、表 8-4-2-11 及び図 8-4-2-2 に示すとおりである。

表 8-4-2-11(1) 高等植物に係る群落及び土地利用の概要

No.	名称	土 地 利 用 の 概 要
01	ハンノキ群落	ヤブツバキクラス域における河川下流域の後背湿地、氾濫原、海岸平野等地下水位の高い湿性立地に成立する落葉広葉樹の自然林。ハンノキが優占する。調査地域では、西尾地区の谷間の湿性立地 1ヶ所に分布している。
02	アカメヤナギ群落	ヤブツバキクラス域において低地の河辺や湿地に成立する落葉広葉樹の自然林。アカメヤナギが優占する。調査地域では庄内川沿い、低地の耕作放棄地に小規模な林分が分布している。
03	コジイ二次林	ヤブツバキクラス域の内陸の山地、低山地に成立するコジイ（ツブラジイ）が萌芽再生した常緑広葉樹の二次林。調査地域では丘陵地斜面、低地の神社に小規模な林分が分布している。
04	コナラ群落	ヤブツバキクラス域の丘陵から低山地に成立する落葉広葉樹の二次林。コナラ等が優占する。調査地域ではケネザサーコナラ群集、アベマキコナラ群集が混在している。西尾地区、上野・坂下地区に広く分布している。
05	アカマツ群落	ヤブツバキクラス域における丘陵地、低山地の斜面上部に広く分布し、アカマツが優占する二次林。調査地域では丘陵地の尾根付近を主体に分布している。
06	クズ群落	ヤブツバキクラス域からブナクラス域下部にかけて陽地に成立するつる植物群落。クズが繁茂する。調査地域では耕作放棄地を中心に分布している。
07	チガヤーススキ群集	ヤブツバキクラス域の放牧地、畑放棄地、造成跡地等に形成される二次草原。チガヤまたはススキが優占する。調査地域では造成地や道路法面に分布している。
08	ヌマガヤオーダー	高層湿原と低層湿原の中間に位置する中間湿原は、ヌマガヤが優占するため、ヌマガヤオーダーに区分されている。調査地域では、西尾地区の池周辺に分布している。
09	貧養地小型植物群落	湿性立地に成立する植生の内、栄養分の堆積しにくい砂礫質の湿潤な立地等に成立する小型植物による群落。調査地域では西尾地区の湿地において小規模な群落が分布している。
10	ミゾソバ-ヨシ群落	水田放棄地、河畔の造成地等富養化した湿地に成立する高茎草原。ヨシが優占し、群落内にはミゾソバ等好窒素性植物が混生する。二次的に形成されるヨシ草原である。調査地域では低地の水田放棄地や河川沿いに分布している。
11	ツルヨシ群集	山地から低地を流れる河川の急流辺や冠水地に成立する多年生草本植物群落。ツルヨシが優占する。調査地域では内津川内に分布している。
12	オギ群集	低地の河辺の冠水地に成立する多年生草本植物群落。オギが優占する。調査地域では低地の耕作放棄地に分布している。
13	ヒルムシロクラス	池や沼、浅い湖、旧河道等の湛水域に成立する水生植物群落を浮葉・沈水植物群落のヒルムシロクラスとしてまとめた。調査地域では砂防堰堤の溜りや耕作地の池に分布している。
14	河辺一年生草本群落（タウコギクラス等）	河川、水路等の流水辺に成立する一年生草本植物群落。調査地域では小河川内に帯状に分布している。
15	スギ・ヒノキ・サワラ植林	常緑針葉樹のスギ、ヒノキ、またはサワラの植林。単独で植栽されることが多いが混植も多い。調査地域では丘陵斜面にわずかに分布している。

表 8-4-2-11(2) 高等植物に係る群落及び土地利用の概要

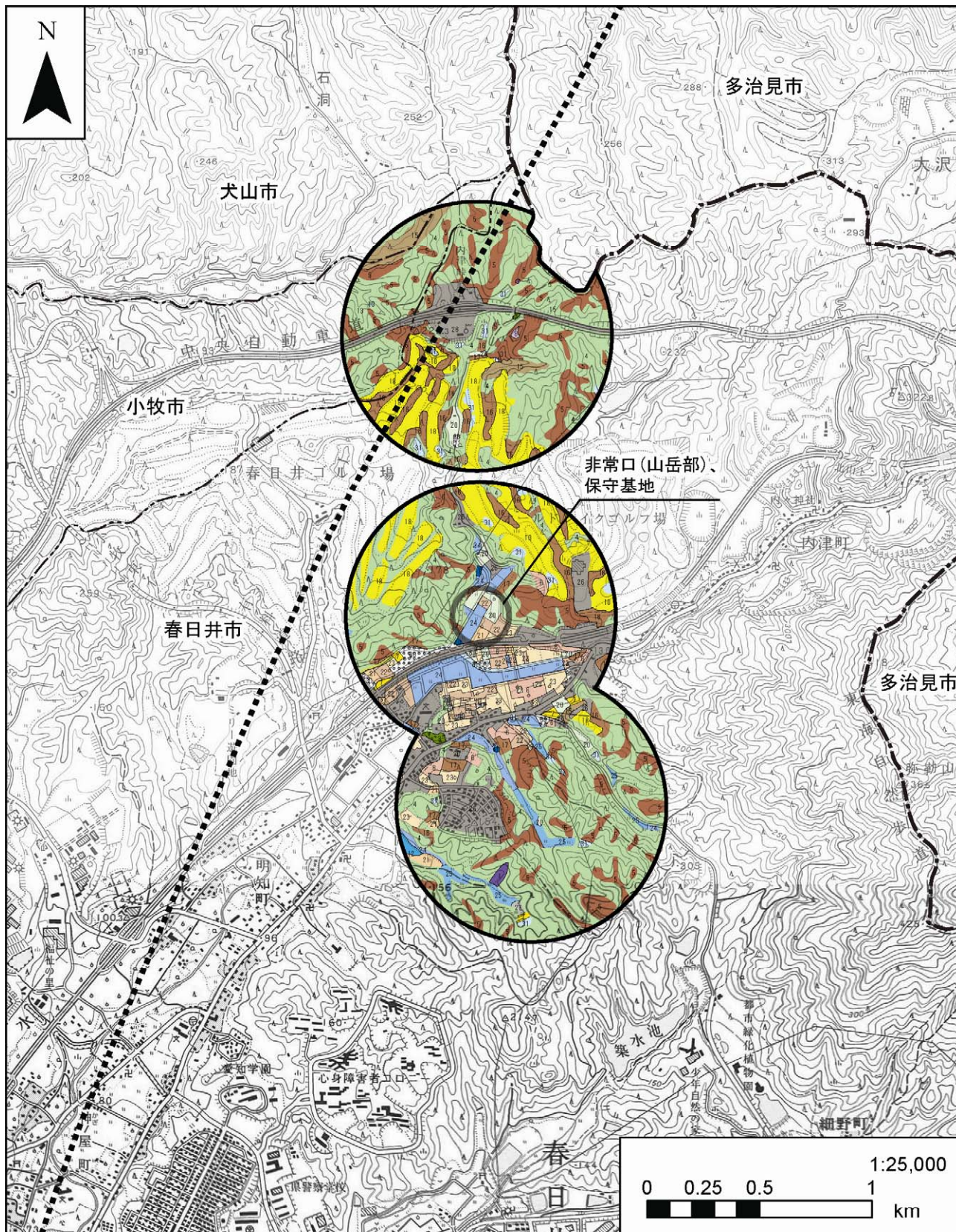
No.	名称	概要
16	アカマツ植林	常緑針葉樹のアカマツの植林。アカマツは貧養で乾燥する立地にも生育することから、斜面上部から尾根を中心に植栽される。調査地域では造成法面を中心に分布している。
17	竹林	主としてヤブツバキクラス域に植栽される竹林。河岸や人家付近の台地脚部等に小面積で分布する。調査地域では内津川沿いの低地、丘陵地斜面に分布している。モウソウチクまたはマダケが優占する。
18	ゴルフ場・芝地	ゴルフ場・芝生として管理される草地。シバ、コウシュンシバ等が植栽され、頻繁な刈り取りによって維持される。調査地域では西尾地区に広く分布している。
19	牧草地	播種等の植栽後、刈り取り等で管理される高さ 1.5m 以下の人工草地。法面等の人工管理下にある草地を含む。調査地域では造成地法面等に分布している。
20	路傍・空地雑草群落	都市と周辺域の空地や造成地に成立する高さ概ね 1m 以下の草本群落。セイタカアワダチソウ、ヨモギ、クズ等が生育し、帰化植物が多い。調査地域では造成地、耕作放棄後の空地に分布している。
21	放棄畑雑草群落	耕作放棄後 1～数年の畑地に成立する雑草群落。メヒシバ等の一年生の畑雑草を主とする群落から、ヒメムカシヨモギ、ヨモギ等の二年生・多年生の路傍雑草群落へと推移する。調査地域では耕作放棄地に成立し、低地に点在している。
22	果樹園	高さ 2m 以上の果樹（林檎、梨、葡萄、桃、蜜柑）が栽培される樹園地、または茶畑。桑畑や苗木畑も含める。畑雑草、路傍雑草が生育する。調査地域では西尾地区に点在している。
23	畑雑草群落	畑地に成立する雑草群落。シロザ、ツククサ、スベリヒユ等の一年生の植物を主構成種とする。調査地域では西尾地区、上野・坂下地区、熊野地区の低地を中心に広く分布している。
24	水田雑草群落	水田に成立する雑草群落。調査地域では西尾地区、上野・坂下地区、熊野地区の低地を中心に広く分布している。
25	放棄水田雑草群落	水田放棄地に成立する高さ 2m 以下の草本植物群落。ミゾソバ、コブナグサ等からなる群落が形成される。調査地域では水田放棄地に成立し、丘陵地谷間にまとまって分布している。
26	市街地	緑被率 30% 未満の市街地等で、住宅地、ビル、道路、人工構造物が卓越する区域。調査地域では上野・坂下地区、熊野地区に広く分布している。名古屋市はほとんどが市街地となっている。
27	緑の多い住宅地	樹林地、草地を含む植被が 30% 以上混在する住宅地。調査地域では市街地内に点在している。
28	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	比較的新しく形成された残存・植栽樹群をもつ大面積の都市公園等。調査地域では三の丸・丸の内地区付近の公園、城跡に分布している。
29	工場地帯	工場を主とする地区で、造船所、高速道路、1ha 以下の資材置き場等が含まれる。調査地域では勝川地区に分布している。
30	造成地・裸地	造成地（造成裸地・人工裸地）には、採石場（採石地）、焼け跡、ボタ山、廃塩田等が含まれる。調査地域全体に点在している。
31	開放水域	開放水域には、河川や池沼等で、抽水植物や沈水植物等による植生が成立していない水域・水面があてはまる。調査地域では西尾地区のため池、熊野地区、勝川地区の河川などに比較的広い面積で存在する。
32	自然裸地	自然裸地は、自然条件により植生が成立しない地域であり、山岳の岩角地、海岸等が含まれる。調査地域では熊野地区の河川内に存在する。
33	残存・植栽樹群地	五十～百年生の雑多な残存樹・植栽樹からなる樹群地。屋敷林、社寺林、都市における植栽林、既存の断片林、混在林等。1ha 以上の樹群地のみを抽出する。調査地域では三の丸・丸の内地区に存在する。

注 1. 群落名は「自然環境保全基礎調査（環境省）・統一凡例」に準拠した。

凡例

 1. ハンノキ群落	 18. ゴルフ場・芝地
 2. アカメヤナギ群落	 19. 牧草地
 3. コジイ二次林	 20. 路傍・空地雑草群落
 4. コナラ群落	 21. 放棄畑雑草群落
 5. アカマツ群落	 22. 果樹園
 6. クズ群落	 23. 畑雑草群落
 7. チガヤススキ群落	 24. 水田雑草群落
 8. ヌマガヤオーダー	 25. 放棄水田雑草群落
 9. 貧養地小型植物群落	 26. 市街地
 10. ミゾソバヨシ群落	 27. 緑の多い住宅地
 11. ツルヨシ群集	 28. 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
 12. オギ群集	 29. 工場地帯
 13. ヒルムシロクラス	 30. 造成地・裸地
 14. 河辺一年生草本群落(タウコギクラス等)	 31. 開放水域
 15. スギ・ヒノキ・サワラ植林	 32. 自然裸地
 16. アカマツ植林	 33. 残存・植栽樹群地
 17. 竹林	

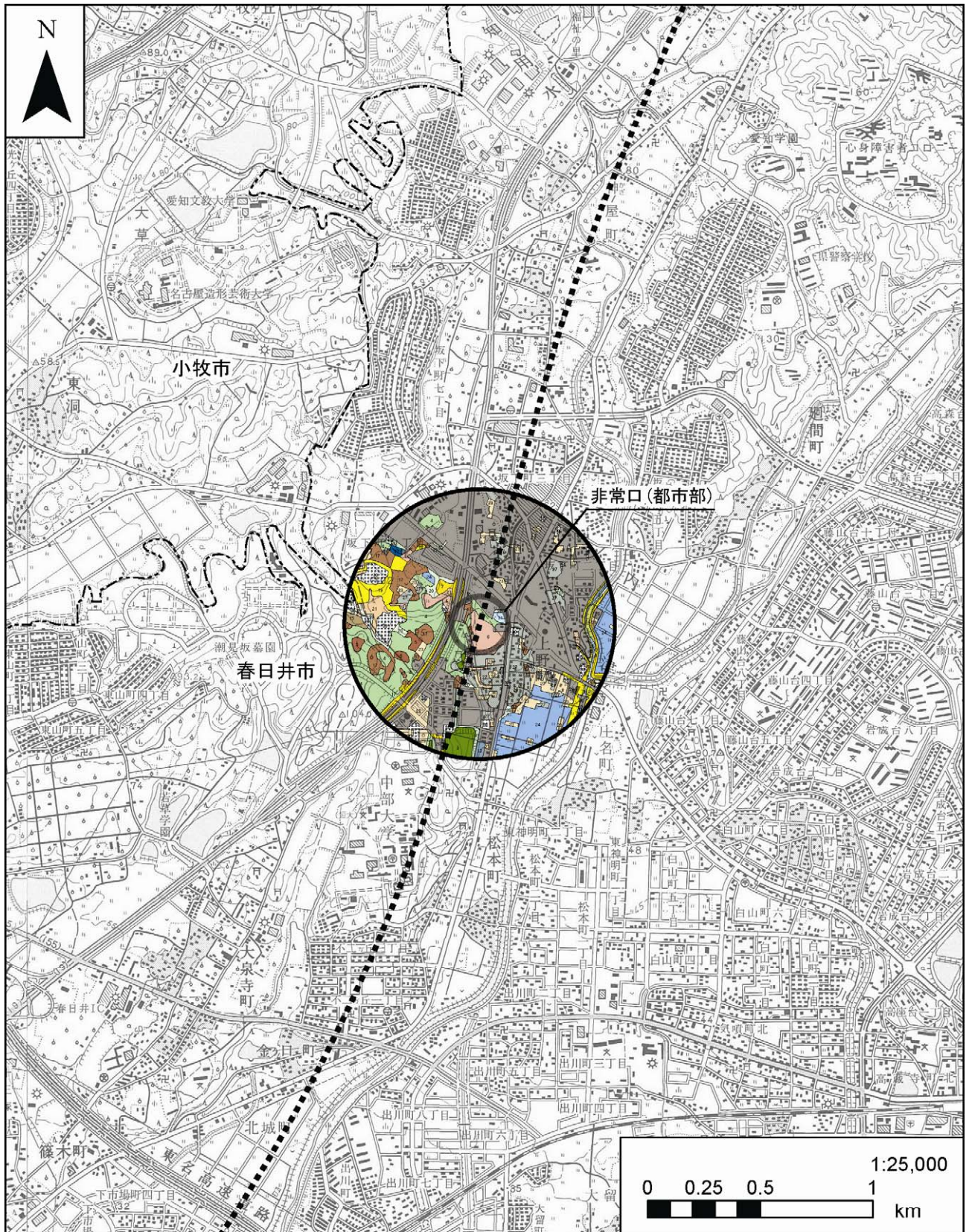
図 8-4-2-2(1) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村境

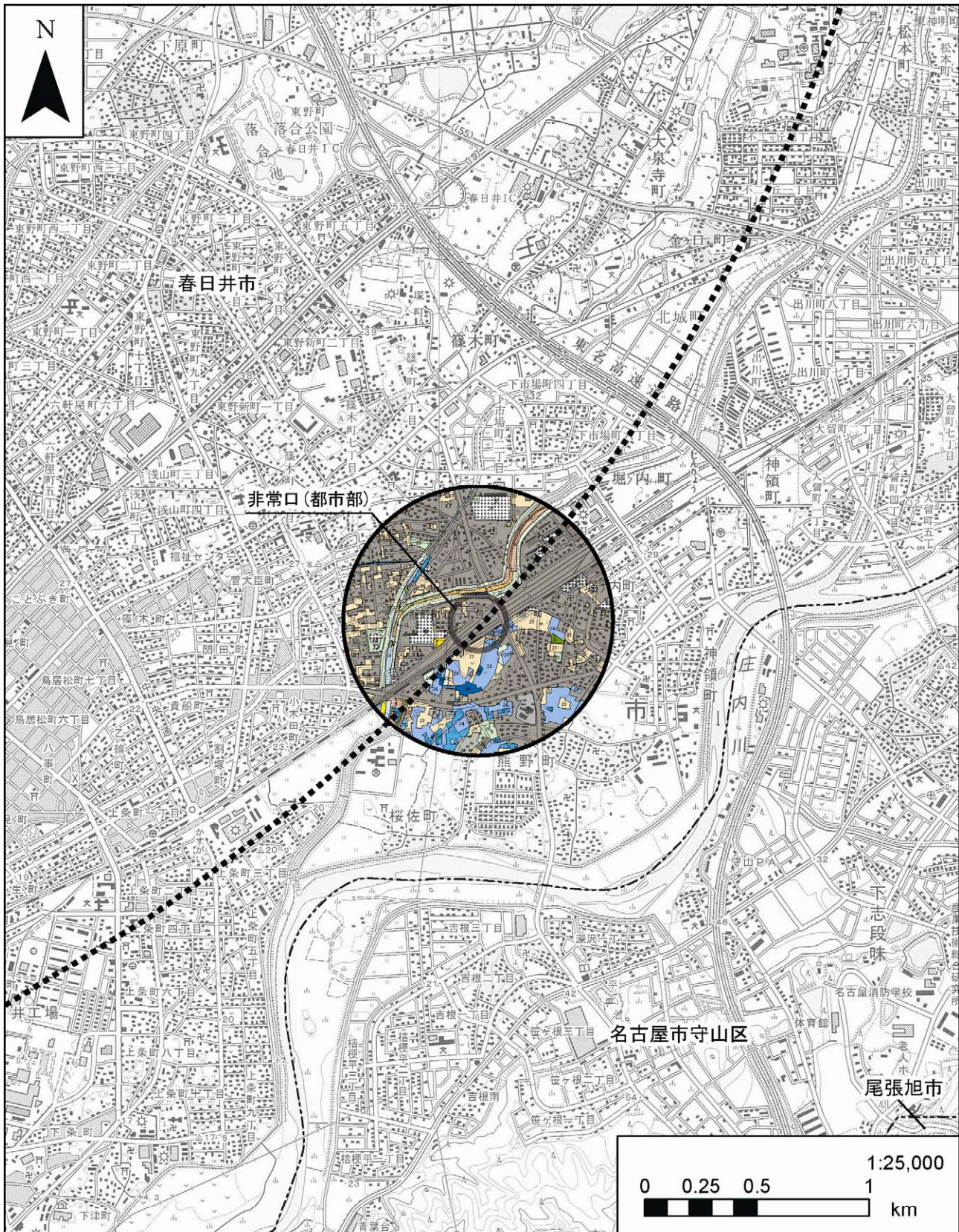
図 8-4-2-2(2) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村境

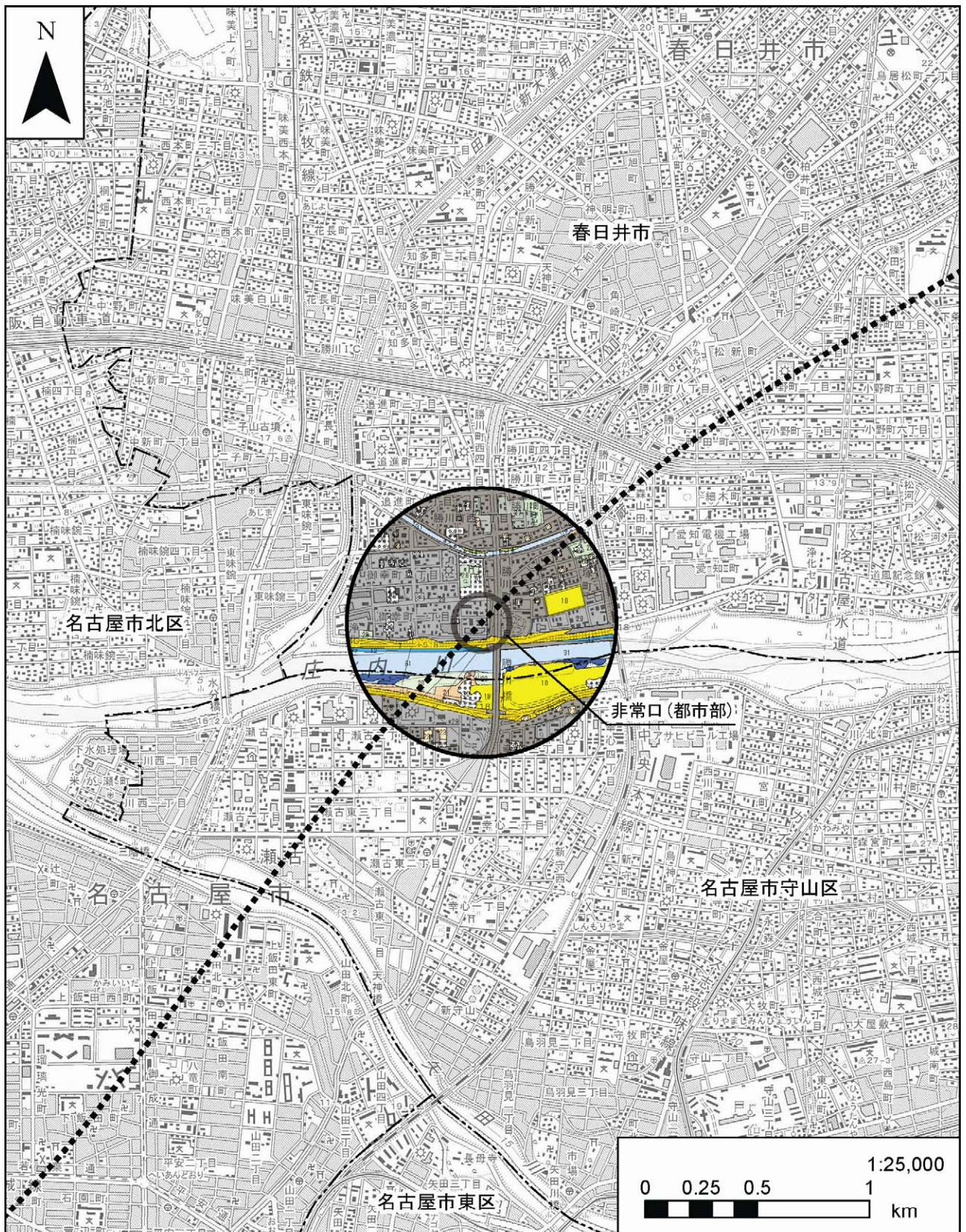
図 8-4-2-2(3) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- .-.- 県境
- 市区町村境

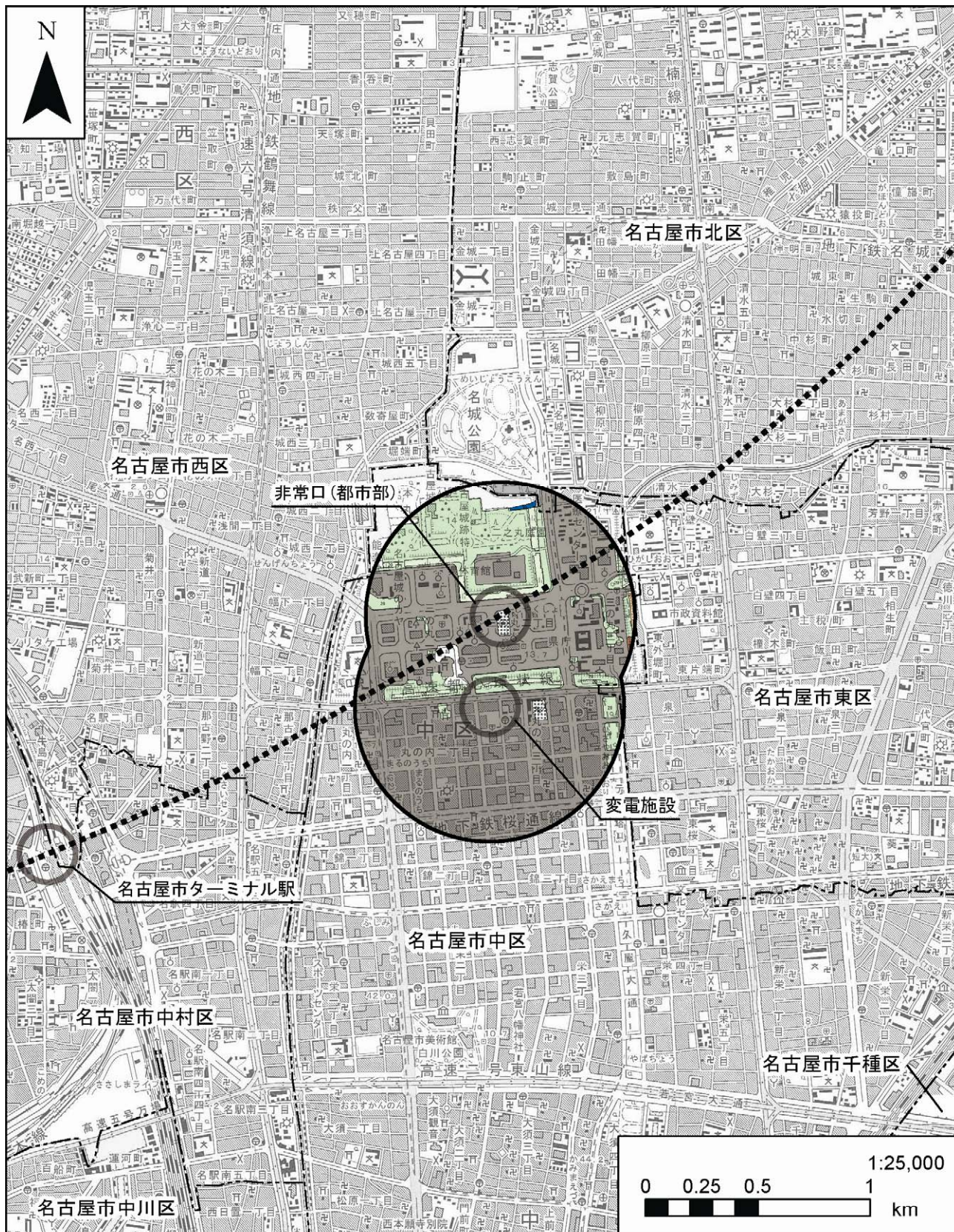
図 8-4-2-2(4) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村境

図 8-4-2-2(5) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- - - 市区町村境

図 8-4-2-2(6) 植生図

イ) 高等植物に係る重要な群落の確認状況

文献調査及び現地調査により確認された高等植物に係る重要な群落は5群落であった。
文献及び現地で確認された高等植物に係る重要な群落とその選定基準は、表 8-4-2-12 に示すとおりである。

表 8-4-2-12 高等植物に係る重要な群落確認一覧

No.	群落名	確認状況		選定基準				
		文献	現地	①	③	⑨	⑪	⑬
01	小牧大山の照葉樹林	○					指定	
02	犬山ヒトツバタゴの自生地	○					指定	
03	オグラコウホネ群落	○					指定	
04	竜泉寺のコジイ林	○					指定	
05	御津神社社叢	○					指定	
計	5 群落	5 群落	0 群落	0 群落	0 群落	0 群落	5 群落	0 群落

注 1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

注 2. 高等植物に係る重要な群落の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

③「愛知県文化財保護条例」(昭和 30 年、愛知県)

「春日井市文化財保護条例」(昭和 57 年、春日井市)

「名古屋市文化財保護条例」(昭和 47 年、名古屋市)

県天：県指定天然記念物、市天：市指定天然記念物

⑨「植物群落レッドデータ・ブック」(平成 8 年、我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会)

1：要注意、2：破壊の危惧、3：対策必要、4：緊急に対策必要

⑪「第 2 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 東海版 (岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)」
(昭和 55 年、環境庁)

「第 3 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落Ⅱ 東海版 (岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)」
(昭和 63 年、環境庁)

「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(平成 12 年、環境庁)

指定：指定されている特定植物群落

⑬専門家の助言により選定した種

○：選定種

ウ. 蘚苔類

7) 蘚苔類の状況

文献調査及び現地調査の結果、蘚苔類に係る重要な種は3科5種であった。文献及び現地で確認された蘚苔類に係る重要な種とその選定基準は、表 8-4-2-13 に示すとおりである。

表 8-4-2-13 蘚苔類に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準		
			文献	現地	⑥	⑦	⑬
01	ミズゴケ	ハリミズゴケ	○	○		VU	○
02		イボミズゴケ	○			NT	
03		オオミズゴケ	○	○	NT	NT	○
04	クジャクゴケ	コキジノオゴケ	○		NT	VU	
05	ヤスデゴケ	サカワヤスデゴケ	○		VU	EX	
計	3科	5種	5種	2種	3種	5種	2種

注 1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

注 2. 蘚苔類に係る重要な種の選定基準は以下のとおりである。

⑥ 「環境省第4次レッドリスト 植物Ⅱ（維管束植物以外：蘚苔類、藻類、地衣類、菌類）」（平成24年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑦ 「レッドデータブックあいち2009」（平成21年、愛知県）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、

DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑬ 専門家の助言により選定した種

○：選定種

(2) 予測及び評価

1) 予測

ア. 予測項目

現地調査で確認された重要な種及び群落に対する工事の実施及び鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在による影響について予測した。

イ. 予測の基本的な手法

既存の知見の引用又は解析により、重要な種及び群落への影響について予測した。

ウ. 予測地域

予測地域は、工事の実施及び鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在に係る重要な種及び群落への影響が生じるおそれがあると認められる地域として、調査地域と同様とした。

エ. 予測対象時期

予測対象時期は、工事の実施に係るものは工事中、鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在に係るものは鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の完成時とした。

オ. 予測対象種及び群落

予測対象種及び群落は、文献調査及び現地調査によって対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性があると考えられる重要な種及び群落とした。

重要な種及び群落の予測対象種は、表 8-4-2-14 に示すとおりである。

表 8-4-2-14(1) 予測対象種及び群落

区分		種名及び群落名
高等植物	現地調査で確認された種 (14 種)	サクラバハンノキ、サイコクヌカボ、シデコブシ、ヘビノボラズ、トウカイコモウセンゴケ、ツメレンゲ、アサザ、カワヂシャ、ヒメタヌキモ、マルミスブタ、シラタマホシクサ、ヤマトミクリ、ナガエミクリ、サギソウ
	文献調査において改変の可能性のある範囲に生育する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (183 種)	ヤチスギラン、ミズニラ、オオハナワラビ、ヒロハハナヤスリ、ヤマドリゼンマイ、タカサゴキジノオ、ヤマソテツ、ウチワゴケ、トキワトラノオ、オクタマシダ、チャセンシダ、コモチシダ、ワカナシダ、オワセベニシダ、タニヘゴ、ウスヒメワラビ、ミヤマシケシダ、ウスバシケシダ、ウスバミヤマノコギリシダ、イワオモダカ、オオクボシダ、デンジソウ、サンショウモ、オオアカウキクサ、カヤ、キヌヤナギ、カワラハンノキ、フモトミズナラ、ミヤコミズ、ホソバイヌタデ、ナガバノウナギツカミ、コムジソバ、ヒメボントクタデ、カワラナデシコ、カゴノキ、ダンコウバイ、ヒメクロモジ、シロダモ、スハマソウ、カザグルマ、オキナグサ、ウマノアシガタ、オニバス、ヒメコウホネ、サワオトギリ、ナガバノイシモチソウ、シロバナナガバノイシモチソウ、イシモチソウ、ミズタガラシ、マルバタネツケバナ、コイヌガラシ、マンサク、ミカワショウマ、キバナハナネコノメ、コガクウツギ、ウメバチソウ、タコノアシ、ヤブサンザシ、ナメラダイモンジソウ、カワラサイコ、エチゴツルキジムシロ、マメナシ

表 8-4-2-14(2) 予測対象種及び群落

区分	種名及び群落名
<p>高等植物</p> <p>文献調査において改変の可能性のある範囲に生育する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (183 種)</p>	<p>カワラケツメイ、タヌキマメ、カラメドハギ、イヌハギ、マキエハギ、ビワコエビラフジ、ヒトツバハギ、カラコギカエデ、ハナノキ、ミヤマウメモドキ、コタチツボスミレ、ケイリュウタチツボスミレ、オオタチツボスミレ、スミレサイシン、オグラノフサモ、ホザキノフサモ、タチモ、エキサイゼリ、オオイワカガミ、シャクジョウソウ、イワナシ、ノジトラノオ、ヒトツバタゴ、コケリンドウ、イヌセンブリ、ガガブタ、クサナギオゴケ、ナガバジュズネノキ、キクムグラ、ホソバノヨツバムグラ、シチョウゲ、ホタルカズラ、ミズタビラコ、ジュウニヒトエ、ケブカツルカソウ、ミズネコノオ、ミズトラノオ、オドリコソウ、ヤマハッカ、ミゾコウジュ、タツナミソウ、ゴマクサ、オオアブノメ、スズメノハコベ、ミカワシオガマ、グンバイヅル、イヌノフグリ、ナンバンギセル、キヨスミウツボ、ノタヌキモ、ミカワタヌキモ、ヒメミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、キキョウ、ヌマダイコン、カワラハハコ、カワラニンジン、ヒメシオン、シロバナタカアザミ、フジバカマ、ミズギク、オグルマ、アオヤギバナ、マルバオモダカ、セトヤナギスブタ、スブタ、トチカガミ、ヒルムシロ、ササバモ、イトモ、サガミトリゲモ、オオトリゲモ、キイトラッキョウ、キヨスミギボウシ、ササユリ、イワショウブ、アマナ、ミカワバイケイソウ、ヒナノシャクジョウ、オオホシクサ、ツクシクロイヌノヒゲ、クロホシクサ、ハネガヤ、ミズタカモジ、ヒメコヌカグサ、ヒナザサ、コゴメカゼクサ、ウンヌケモドキ、ウンヌケ、トウササクサ、ウキシバ、シダミコザサ、ナリヒラダケ、ミクリ、ツクバスゲ、ビロードスゲ、オオタマツリスゲ、タカネマスクサ、ニシノホンモンジスゲ、ヒメアオガヤツリ、ヌマガヤツリ、オオシロガヤツリ、ヒメガヤツリ、セイタカハリイ、トネテンツキ、オオイヌノハナヒゲ、シズイ、ミカワシンジュガヤ、イワチドリ、エビネ、ナツエビネ、キンラン、クマガイソウ、セッコク、オオミヤマウズラ、シュスラン、ミズトンボ、ホクリクムヨウラン、ウスギムヨウラン、トキソウ、ヤマトキシソウ</p>
<p>群落</p> <p>現地調査で確認された群落 (0 群落)</p>	
<p>文献調査において改変の可能性のある範囲に生育する可能性があると考えられる重要な群落の内、現地調査で確認されなかった群落 (5 群落)</p>	<p>小牧大山の照葉樹林、犬山ヒトツバタゴの自生地、オグラコウホネ群落、竜泉寺のコジイ林、御津神社社叢</p>
<p>藓苔類</p> <p>現地調査で確認された種 (2 種)</p>	<p>ハリミズゴケ、オオミズゴケ</p>
<p>文献調査において改変の可能性のある範囲に生育する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (3 種)</p>	<p>イボミズゴケ、コキジノオゴケ、サカワヤスデゴケ</p>

カ. 影響予測の手順

影響予測は、図 8-4-2-3 に示す手順に基づき行った。

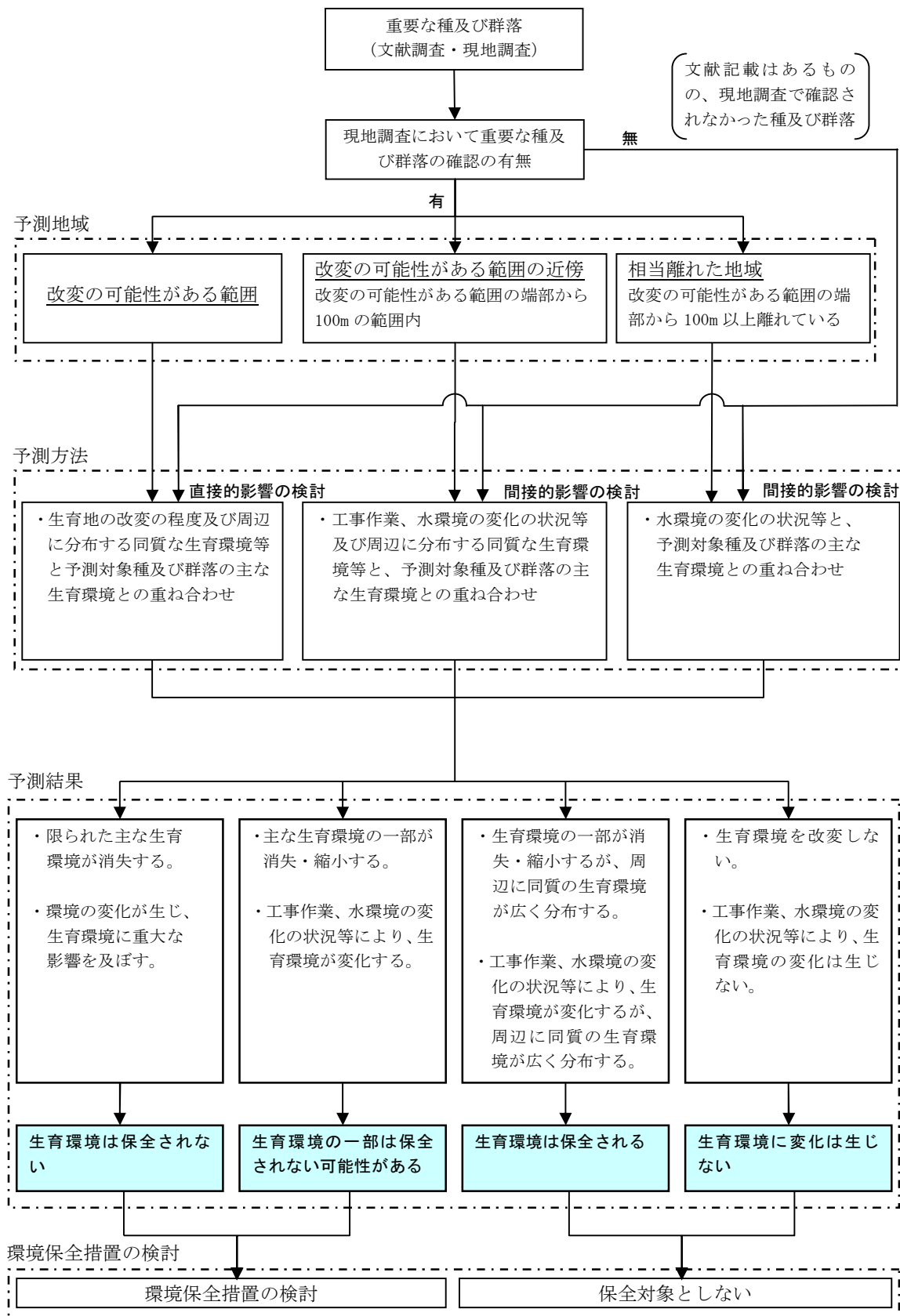


図 8-4-2-3 影響予測の手順

キ. 予測結果

ア) 現地調査で確認された重要な種及び群落の生育環境への影響

現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要を、表 8-4-2-15 に示すとおりである。
また、個別の種に対する詳細な予測結果を表 8-4-2-16 に示す。

表 8-4-2-15 重要な種の予測結果の概要

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置			生育環境への影響
			改変の可能性 がある 範囲	改変の 可能性 がある範 囲の近傍	相当 離れた 地域	
01	サクラバハンノキ	湿地			○	生育環境に変化は生じない。
02	サイコクヌカボ	池周縁部の湿地			○	生育環境に変化は生じない。
03	シデコブシ	水路沿い、湿地			○	生育環境に変化は生じない。
04	ヘビノボラズ	湿地			○	生育環境に変化は生じない。
05	トウカイコモウセンゴケ	湿地			○	生育環境に変化は生じない。
06	ツメレンゲ	石垣			○	生育環境に変化は生じない。
07	アサザ	ため池			○	生育環境に変化は生じない。
08	カワヂシャ	河川	○		○	生育環境は保全される。
09	ヒメタヌキモ	ため池			○	生育環境に変化は生じない。
10	マルミスブタ	ため池			○	生育環境に変化は生じない。
11	シラタマホシクサ	湿地			○	生育環境に変化は生じない。
12	ヤマトミクリ	ため池			○	生育環境に変化は生じない。
13	ナガエミクリ	水路			○	生育環境に変化は生じない。
14	サギソウ	湿地			○	生育環境に変化は生じない。
15	ハリミズゴケ	湿地			○	生育環境に変化は生じない。
16	オオミズゴケ	湿地、水路沿い			○	生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-16(1) 重要な種の予測結果

サイクラバハンノキ (カバノキ科)		
一般生態	本州（茨城・栃木・新潟県以西）、九州（宮崎県）に分布する。湿地にまれに生える落葉高木。高さ10～15m、直径20cm程になる。花は2～3月に葉に先立って開く。雄花序は枝の先に4～5個ついて下垂する。雌花序はその下方に3～5個つき、短い柄がある。	
確認状況	春日井市においては、夏季調査時に合計2地点2個体が確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は、相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、サイクラバハンノキの生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生育環境の変化は生じない。

表 8-4-2-16(2) 重要な種の予測結果

サイコクヌカボ (タデ科)		
一般生態	中部地方以西、四国、九州に分布する。河川敷、ため池の周辺などの低湿地に生育する高さ0.3～0.6mの1年草。花期は9～10月。総状花序は長さ5～6cmで先端はたれ、まばらに花をつける。がくは5裂し淡紅色。	
確認状況	春日井市においては秋季調査時に1地点1個体が確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、サイコクヌカボは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、サイコクヌカボは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-16(3) 重要な種の予測結果

シデコブシ (モクレン科)		
一般生態	本州（東海地方の伊勢湾周辺地域）に分布する。湿地やその周辺に生える落葉小高木。高さ5m程になる。自生地では群生し、純林をつくる。花期は3～4月で、葉が展開する前に直径7～10cmの芳香のある花を開く。花被片は12～18個。ふつう白色だが、淡紅色を帯びるものもある。果実は10月頃熟す。	
確認状況	春日井市においては早春季、春季、夏季調査時に合計34地点100個体以上が確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、シデコブシは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、シデコブシは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-16(4) 重要な種の予測結果

ヘビノボラズ (メギ科)		
一般生態	本州 (中部地方南西部、近畿地方)、九州 (宮崎県) に分布する。湧水湿地周辺の林縁や疎林内に生育する小型の落葉低木。高さ 80cm 程で、枝には鋭い刺がある。花期は 4～5 月。短枝の先より垂れ下がる総状花序をだし、数個の花をつける。花は黄色で径約 6mm。	
確認状況	春日井市においては、春季及び夏季調査時に合計 4 地点 8 個体が確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、ヘビノボラズは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、ヘビノボラズは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 したがって、生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-16(5) 重要な種の予測結果

トウカイコモウセンゴケ (モウセンゴケ科)		
一般生態	本州 (東海地方以西) に分布する。貧栄養湿地に生育する多年生の食虫植物。常緑であり、モウセンゴケのように休眠芽は形成しないことから、霜が降らないような場所でしか生育することができない。花はピンク色で、花期は 7～8 月。	
確認状況	春日井市においては、早春季、夏季及び秋季調査時に、1 地点で点在するのが確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、トウカイコモウセンゴケは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、トウカイコモウセンゴケは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 トンネルの工事および鉄道施設 (トンネル) の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。 したがって、生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-16(6) 重要な種の予測結果

ツメレンゲ (ベンケイソウ科)		
一般生態	本州 (関東地方以西)、四国、九州に分布する。暖地の岩上や屋根の上などに生える多年草。花期は 9～11 月。葉は細長く、先端が刺状に尖っている。	
確認状況	名古屋市においては、春季調査時に合計 1 地点 90 個体が確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は、相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、ツメレンゲの生育環境への影響は及ばない。 したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生育環境の変化は生じない。

表 8-4-2-16(7) 重要な種の予測結果

アサザ (ミツガシワ科)		
一般生態	全国の湖沼、ため池、水路などに群生する多年生の浮葉植物。愛知県では海部郡大治町南部に生育している。花期は 6～9 月。花は黄色で葉腋に多数の花が束生する集散花序をつくるが、1日に咲くのは1花のみである。	
確認状況	春日井市においては、秋季調査時に合計1地点、0.5m×3mの群生が確認された。なお、ため池の周囲は伐採整備されるなど、生育地には何らかの人手が加わっている可能性も考えられ、自生個体であるとは確定できない。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は、相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、アサザの生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生育環境の変化は生じない。

表 8-4-2-16(8) 重要な種の予測結果

カワヂシャ (ゴマノハグサ科)		
一般生態	本州、四国、九州、沖縄の田のあぜや川岸、溝のふちなど、湿ったところに生える高さ 10～50 cmの2年草。愛知県では平野部に多く、山間部ではほとんどみられない。花期は5～6月。葉腋から長さ5～15cmの細い総状花序をだし、直径3～4mmの小さな花を多数つける。	
確認状況	春日井市、名古屋市において合計14地点で確認された。春日井市においては春季及び夏季調査時に合計13地点100個体以上、名古屋市においては春季調査時に合計1地点1個体が確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された春日井市熊野地区の地点は改変の可能性がある範囲、その他の地点は相当離れた地域であった。そのため、工事作業により生育環境の一部が消失又は消失、縮小する可能性があるが、周辺に川岸、水路など同質の生育環境が広く分布している。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、カワヂシャの生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境は保全される。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された春日井市熊野地区の地点は改変の可能性がある範囲であるが、工事の実施による生育環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設(非常口(都市部、山岳部)、変電施設、保守基地)の存在による生育環境の変化は生じない。また、その他の地点は相当離れた地域であるため、生育環境への影響は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-16(9) 重要な種の予測結果

ヒメタヌキモ (タヌキモ科)		
一般生態	全国の貧栄養の湖沼やため池、湿原などに生育する小形の多年草。花期は8～9月であるが、開花しない場所が多い。根はなく茎は長さ5～30cm。水中を浮遊する場合と、水底に固着している場合がある。	
確認状況	春日井市においては、秋季調査時に1地点で点在するのが確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は、相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、ヒメタヌキモの生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生育環境の変化は生じない。

表 8-4-2-16(10) 重要な種の予測結果

マルミスブタ (トチカガミ科)		
一般生態	本州、四国、九州、沖縄の水田やため池などに生育する1年生の沈水植物。花期は7～10月。外見はスブタによく似ているが、スブタに見られる種子両側の尾状突起が発達しないことで見分けられる。	
確認状況	春日井市においては、秋季調査時に1地点で群生するのが確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は、相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、マルミスブタの生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生育環境の変化は生じない。

表 8-4-2-16(11) 重要な種の予測結果

シラタマホシクサ (ホシクサ科)		
一般生態	本州(静岡・愛知・三重・岐阜県)に分布する。伊勢湾沿岸の湿地にだけ生える1年草。花期は、8～10月。花茎はややねじれ、高さ20～40cmになる。頭花に白い毛が多く、白い球のようなのでつけられた。	
確認状況	春日井市においては、秋季調査時に合計1地点100個体以上が確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、シラタマホシクサは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、シラタマホシクサは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-16(12) 重要な種の予測結果

ヤマトミクリ (ミクリ科)		
一般生態	本州以西の湖沼、ため池、河川などに群生する多年生の抽水植物。愛知県では設楽町東部、渥美半島、瀬戸市、尾張旭市、日進市、長久手市、小牧市、春日井市、名古屋市北部に分布する。丘陵地の小規模なため池や砂防ダムによってできた小池等に生育していることが多い。花期は5～9月。果期の雌性頭花は径15～20mm(柱頭部を除く)になる。	
確認状況	春日井市においては、夏季及び秋季調査時に合計5地点100個体以上が確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は、相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、ヤマトミクリの生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・トンネルの工事および鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-16(13) 重要な種の予測結果

ナガエミクリ (ミクリ科)		
一般生態	北海道南西部と本州以西の湖沼、ため池、河川、水路などに生育する多年生の抽水～浮葉植物。愛知県では尾張旭市東栄町、豊橋市北部、岡崎市北部・南部、安城市、知多半島南部、春日井市、名古屋市北部等に分布する。ミクリ属の中では最も個体数が多く、多少汚れた水域にも生育しているが次第に減少している。花期は 6～9 月。果時には径 1.5～2cm になり、上部の頭花は近接する。	
確認状況	春日井市においては、夏季及び秋季調査時に合計 6 地点 100 個体以上が確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は、相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、ナガエミクリの生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-16(14) 重要な種の予測結果

サギソウ (ラン科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。山野の日当たりのよい湿原に生える高さ 15～40cm の多年草。花期は 8 月で、花は 1～4 個つき、白色で直径約 3cm。	
確認状況	春日井市においては、夏季調査時に合計 1 地点 10 個体が確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は、相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-16(15) 重要な種の予測結果

ハリミズゴケ (ミズゴケ科)		
一般生態	国内では北海道から九州まで全国に広く分布する。中間～高層湿原の池塘の水辺に生育する。繊細なものからやや大型のものまであり、茎葉は舌状三角形で先端はやや鋭頭で鋸歯がある。茎葉上部の透明細胞には螺旋状の肥厚がある。枝葉は長卵形、上部の縁は内曲し、先端は細長く尖るか、ときに狭い切形である。	
確認状況	春日井市においては、秋季調査時に 1 地点でマット状に生育しているのが確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、ハリミズゴケは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、ハリミズゴケは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-16(16) 重要な種の予測結果

オオミズゴケ (ミズゴケ科)		
一般生態	国内では北海道～九州まで全国に広く分布する。山地の湿った地上や中間湿原に白緑色の大きな群落をつくる。ミズゴケ属としては大型、茎は一般に長さ 10cm 以上で、頂端に多数の枝が集まる。茎の表皮細胞には明瞭な螺旋状肥厚がある。茎葉は舌形で先端はささくれる。枝葉は広楕円形で深くくぼむ。	
確認状況	春日井市においては、秋季調査時に 10 地点でマット状に数多く確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、オオミズゴケは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。
	鉄道施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、オオミズゴケは確認されていないため、生育環境の変化は生じない。 ・山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されることから、生育環境への影響は及ばない。 ・トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生育環境への影響は小さい。 ・したがって、生育環境に変化は生じない。

イ) 文献でのみ記載がある重要な種及び群落の生育環境への影響

文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性があると考えられる重要な種及び群落の内、現地調査で確認されなかった重要な種は、高等植物 183 種、群落は 5 群落、蘚苔類 3 種であった。

これらのうち、ヤチスギラン、タニヘゴ、デンジソウ、サンショウモ、オオアカウキクサ、キヌヤナギ、ミヤコミズ、ホソバイヌタデ、ナガバノウナギツカミ、コミゾソバ、ヒメボントクタデ、ナガバノイシモチソウ、シロバナナガバノイシモチソウ、イシモチソウ、ミズタガラシ、コイヌガラシ、ウメバチソウ、タコノアシ、マメナシ、ハナノキ、ミヤマウメモドキ、エキサイゼリ、イヌセンブリ、ホソバノヨツバムグラ、ミズタビラコ、ケブカツルカコソウ、ミズネコノオ、ミズトラノオ、ゴマクサ、オオアブノメ、スズメノハコベ、ミカワシオガマ、ヒメミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、ヌマダイコン、シロバナタカアザミ、ミズギク、オグルマ、セトヤナギスブタ、キヨスミギボウシ、イワショウブ、ミカワバイケイソウ、オオホシクサ、ツクシクロイヌノヒゲ、クロホシクサ、ミズタカモジ、ヒメコヌカグサ、ヒナザサ、コゴメカゼクサ、ナリヒラダケ、ヒメアオガヤツリ、ヌマガヤツリ、オオシロガヤツリ、ヒメガヤツリ、セイタカハリイ、トネテンツキ、オオイヌノハナヒゲ、ミカワシンジュガヤ、オオミヤマウズラ、ミズトンボ、コバノトンボソウ、トキソウ、ヤマトキソウ、イボミズゴケは、丘陵地・平地の湿地が主な生育環境である。ミズニラは、丘陵地・平地の湿地や水域が主な生育環境である。ヒロハハナヤスリ、タカサゴキジノオ、ヤマソテツ、コモチシダ、ワカナシダ、オワセベニシダ、ウスヒメワラビ、ミヤマシケシダ、ウスバシケシダ、ウスバミヤマノコギリシダ、オオクボシダ、フモトミズナラ、カゴノキ、ダンコウバイ、ヒメクロモジ、シロダモ、スハマソウ、カザグルマ、サワオトギリ、マルバタネツケバナ、マンサク、ミカワショウマ、コガクウツギ、ヤブサンザシ、ビワコエビラフジ、カラコギカエデ、コタチツボスミレ、オオタチツボスミレ、スミレサイシン、オオイワカガミ、ジャクジョウソウ、イワナシ、クサナギオゴケ、ナガバジュズネノキ、キクムグラ、ジュウニヒトエ、キヨスミウツボ、ササユリ、ヒナノジャクジョウ、ハネガヤ、トウササクサ、シダミコザサ、オオタマツリスゲ、タカネマスクサ、ニシノホンモンジスゲ、エビネ、ナツエビネ、キンラン、クマガイソウ、シュスランは、丘陵地・平地の樹林が主な生育環境である。ヤマドリゼンマイは、丘陵地・平地の樹林や湿地が主な生育環境である。カワラナデシコ、オキナグサ、ウマノアシガタ、タヌキマメ、カラメドハギ、イヌハギ、マキエハギ、ヒトツバハギ、コケリンドウ、ホテルカズラ、オドリコソウ、ヤマハッカ、タツナミソウ、イヌノフグリ、ナンバンギセル、キキョウ、アマナ、ウンヌケモドキ、ウンヌケは、丘陵地・平地の草地が主な生育環境である。オニバス、ヒメコウホネ、オグラノフサモ、ホザキノフサモ、タチモ、ガガブタ、ノタヌキモ、ミカワタヌキモ、マルバオモダカ、スブタ、トチカガミ、ヒルムシロ、ササバモ、イトモ、オオトリゲモ、ウキシバ、ミクリ、シズイは、丘陵地・平地の水域が主な生育環境である。オオハナワラビ、エキゴツルキジムシロ、ヒトツバタゴ、イトテンツキは、丘陵地・平地の裸地が主な生育環境である。ウチワゴケ、タキミシダ、カミガモシダ、トキワトラノオ、オクタマシダ、チャセンシダ、キバナハナネコノメ、ナメラダイモンジソウ、

ケンボナシ、グンバイヅル、キイトラッキョウ、ツクバスゲ、ヒナラン、イワチドリは、丘陵地・平地の岩場が主な生育環境である。イワオモダカ、セッコウは、丘陵地・平地の岩場や樹幹が主な生育環境である。カワラハンノキ、カワラサイコ、カワラケツメイ、ケイリュウタチツボスミレ、シチョウゲ、ミゾコウジュ、アオヤギバナ、ピロードスゲは、丘陵地・平地の礫河原が主な生育環境である。ノジトラノオ、カワラハハコ、カワラニンジン、ヒメシオン、カモノハシは、丘陵地・平地の礫河原や裸地が主な生育環境である。

このため、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在により、重要な種及び群落の生育環境の一部が消失、縮小する可能性が考えられるが、周辺に同質の生育環境が広く分布すること、工事に伴う排水は必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することから生育環境の消失、縮小は一部にとどまる。また、東海丘陵の小湿地群は、直接改変はないため、生育環境に大きな変化は生じない。山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されているため、深層の基盤岩をトンネルで通過することによる生育環境の変化は生じないと予測した。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な種及び群落の生育環境は保全されると予測した。

2) 環境保全措置の検討

ア. 環境保全措置の検討の状況

本事業は、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在による植物への影響の程度はわずかであり、周辺に同質の生育環境が広く分布することから、重要な種の生育環境は保全される又は生育環境に変化は生じないと予測した。

このことから、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）、鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在に係る植物への影響はないものと考えられるが、事業者による実行可能な範囲内で、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）による植物に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。

検討にあたっては、「外来種の拡大抑制」を基本とした上で、さらに影響を低減させる措置を実施する。また、その結果を踏まえ、必要な場合には、損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を検討した。

環境保全措置の検討の状況を表 8-4-2-17 に示す。

表 8-4-2-17 環境保全措置の検討の状況

環境保全措置	保全対象種	実施の適否	適否の理由
外来種の拡大抑制	—	適	資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努める。また作業員に対し、外来種拡大防止対策の重要性について教育を行うことで、外来種の拡大を抑制し、生育環境への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。
放流時の放流箇所及び水温の調整	—	適	トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、トンネルからの湧水を放流する河川を生育環境とする種全般への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。

工事計画を検討するにあたり、重要な種の生育状況及び専門家の助言等を踏まえ、環境影響を可能な限り回避又は低減し、必要な場合には損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を講じていく。

イ. 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容

本事業では、工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）による植物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「外来種の拡大抑制」及び「放流時の放流箇所及び水温の調整」を実施する。

環境保全措置の内容を表 8-4-2-18 に示す。

表 8-4-2-18(1) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	—	
実施内容	種類・方法	外来種の拡大抑制
	位置・範囲	施工ヤード
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	資材及び機械の運搬に用いる車両のタイヤ洗浄や工事後の施工ヤードの速やかな在来種による緑化等に努める。また作業員に対し、外来種拡大防止対策の重要性について教育を行うことで、外来種の拡大を抑制し、生育環境への影響を回避又は低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-18(2) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	—	
実施内容	種類・方法	放流時の放流箇所及び水温の調整
	位置・範囲	トンネルの工事を実施する箇所
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性が あるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整す るとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にし てから放流することで、トンネルからの湧水を放流する河川を生 育環境とする種全般への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

3) 事後調査

植物に係る影響について、予測の不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しないこととした。

4) 評価

ア. 評価の手法

7) 回避又は低減に係る評価

事業の実施による影響が、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減がなされているか否かについて、見解を明らかにすることにより評価を行った。

イ. 評価結果

7) 回避又は低減に係る評価

計画路線は、計画段階において、大部分をトンネル構造にするなどして、植物への影響の回避又は低減を図っている。また、予測結果から、重要な種の生育環境は保全される又は生育環境に変化は生じないことから、植物の重要な種及び群落への影響はないものと考えられる。

なお、東海丘陵の小湿地群については、非常口（山岳部）と本線を接続するトンネルから1km以上の離隔があることから影響はないと考えられる。